

第2回 長野県新型インフルエンザ等対策懇談会

日時 令和6年11月12日（火）

17:00～18:30

場所 県庁議会棟4階 402会議室

信州大学医学部附属病院 研修室2

1 出席者

構成員 金井信一郎（信大病院感染制御室副室長）、杉山敦（県医師会）、岡田邦彦（佐久医療センター副院長）、内藤隆文（県薬剤師会副会長）、萱垣光英（県高齢者福祉事業協会）

長野県 小野消防課長、中田副参事兼課長補佐、塚原感染症対策課長

2 内容

（1）長野県新型インフルエンザ等対策行動計画改定案について …資料1～3

【資料1～3】を説明。構成員からの主な意見は以下のとおり。

（杉山構成員）・BCPについて、関係機関の兼ね合いを整理する必要があると思う。例えば松本市のBCPでは有事の際は、医師は医療救護施設に集まるとされているが、それぞれの医療機関のBCPでは、自分の施設を守ることになると思う。

（金井座長）・検査については、実際に検査を行う検査技師の意見も聞いたらよいのではないかと。

（内藤構成員）・特定の人、機関への負担が増大することを懸念。DXの推進と第8次保健医療計画に基づく人材育成が重要になるのではないかと。

・BCPについては、各団体が独自に作成しているので、それらを集約して整えるのもひとつと考える。

（萱垣構成員）・高齢者介護施設の医療をどう充実させるかは大きな課題。特に山間部等の小さな市町村における体制が心配。コロナの際には、ICN看護師にとってもお世話になった。次の感染症危機においてもICN看護師への情報共有をお願いしたい。

・多くの施設がユニット型の施設で4人部屋の施設。個室が感染症対策には有効だと考えている。

（金井座長）・感染対策を担える人材の育成が重要。地域で感染が流行しているとICN看護師も自分の施設での対応で忙しくなり、他の施設への対応に手が回らないこともある。各施設での感染症流行前の感染症対策の教育が重要で、ボトムアップすべき。平時、初期の感染対策の重要性を記載した方がよい。

（2）その他

今後のスケジュールを説明。